

# 博物館だより

No.19

平成 19年 11月 1日  
みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## 秋の企画展

### 京築地方の発掘速報展2007

会期 10月30日(火)～12月24日(月)

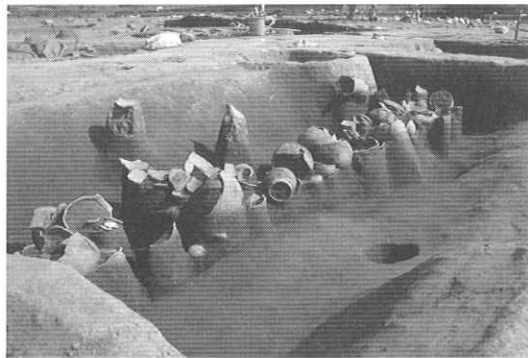
現在、博物館では「京築地方の発掘速報展2007」を開催しています。

この企画展は、平成16年度～18年度に京築地区2市5町で行なわれた発掘調査の成果を、出土遺物の展示を通して紹介するものです。近年の発掘調査の成果を一堂に見ることの出来る数少ない機会です。ぜひ、ご来館ください。

なお、今回の企画展は、初めての試みとして京築各市町教育委員会と文化財行政担当者で組織する「京築文化財行政連絡協議会」が主催者となって開催しています。



▲タコ壺出土状況(豊前市赤熊花ノ木遺跡)



▲弥生時代の環濠(上毛町上唐原榎町遺跡)

#### 【開催期間】

平成19年12月24日(月)まで

#### 【開催場所】

当館第1展示室

#### 【展示品】

京築地区の各市町で平成16年度～18年度に行なわれた発掘調査の出土品約300点

#### 【最新の発掘調査報告会】

発掘調査を担当した県および各市町教育委員会職員による成果報告会。事前申し込み不要。

#### ◎開催日時

11月17日(土) 13時00分～

◎開催場所 当館研修室  
◎報告順

- 13時00分～行橋市の報告
- 13時20分～豊前市の報告
- 13時40分～上毛町の報告
- 14時00分～苅田町の報告
- 14時30分～築上町の報告
- 14時50分～県教委の報告
- 15時10分～みやこ町の報告

### 友の会講演会は

11月18日(日)

博物館友の会主催の文化講演会を下記のとおり開催致します。ぜひ、お集まりください。

■日時 平成19年11月18日(日)

午後1時30分～

■場所 当館研修室

■講師 九州大学名誉教授

丸山雅成先生

■演題 「小倉藩の参勤交代と

街道・宿駅」

### お知らせ11月の歴史講座

【漢詩文講座】

11月1日(木) 9時30分～

【古典仮名講座】

11月8日(木) 9時30分～

【古文書講座】

11月10日(土) 10時00分～

【初級古文書講座】

11月16日(金) 10時00分～

【みやこ学講座】

11月18日(日) 10時00分～

### 《古文書解読コーナー》

① あ終

〈ヒント〉頭を下げて礼をする。

② 者信

〈ヒント〉「お知恵を○○」

③ 為親

〈ヒント〉人に会うこと。

④ 乃為

〈ヒント〉社寺をおがんでまわる

⑤ 浮経

〈ヒント〉ノーヒント。同じ字で異なるくずし方。

◎答え

(反対向きに見てくたせ)

- ① あ終
- ② 者信
- ③ 為親
- ④ 乃為
- ⑤ 浮経

知ってるつもりヒト・モノ・コトに意外なドラマ  
**みやこの歴史発見伝 ⑧**

# 「胸の観音」とその伝説

## 胸の観音

みやこ町勝山黒田の鹿ヶ峰は、標高二三〇メートルほどの小山ですが、別名を観音山と言い、その名のおり中腹には「胸の観音」と呼ばれる天台宗の寺院（観音寺）があります。この「胸の観音」は、とくに胸部疾患の治療に利益があるとされ、五月と十月の大祭は多くの参拝者で賑わいますが、地元ではその信仰の由来にまつわる、次のような伝説が語り継がれています。

## 伝説

「その昔、延永（現行橋市）には広大な田畑を持つ長者が住んでいました。ある年、この地域がたいへんな旱魃に見舞われた時、延永長者は何とかしようとして小松ヶ池に住む龍神に、末娘の早苗と引替えに雨を降らしてくれよう頼みました。龍神はその願いを聞き入れて雨を降らせ、おかげで田畑は潤いましたが、約束どおり早苗は龍神に差し出されることになりました。約束の日、早苗は多くの村人に見送られ、小松ヶ池に向かいます。池に着くと、荒波が立ち龍神が襲いかかってきましたが、早苗は持つて来た観音経を唱え、一

巻読み終えるごとにそれを針でとじ、池に投げ入れました。すると経巻を飲み干した龍神が観音経の法力と針の痛みに耐えかねて死んでしまい、早苗は難を逃れたのです。しかし、その帰り道、鹿ヶ峰の麓で龍の毒気にあてられたのか、突然早苗は胸の痛みを訴え、ついには息を引き取ってしまいました。村人たちは不憫な早苗の霊をなぐさめるため、彼女が息絶えた鹿ヶ峰の岩窟に観音像を安置し、以後、胸の観音として信仰したのです。」

この「胸の観音」伝説には、細かな点で場面設定の異なるものが数種類伝えられていますが、基本



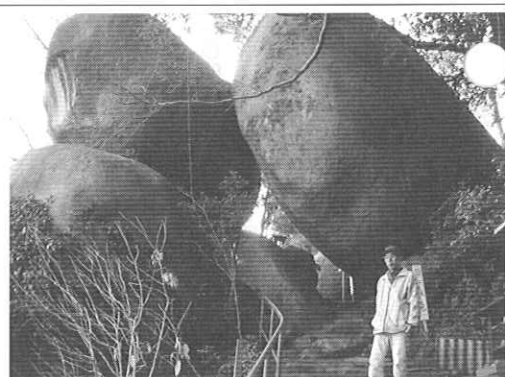
▲胸の観音。巨大な岩窟の奥に本尊が安置される

となるストーリーはどれも同じです。言うまでもなく、伝説と歴史の混同は「ご法度」であり、そのことは「胸の観音」伝説でも同じです。また、類似した物語は各地に伝えられており、広く見れば、内容的に取り立てて珍しいものでもないことも断っておきたいことです。そのうえで、「胸の観音」伝説のタネ（種）を探してみました。

## 伝説のタネ〜巨石信仰

「胸の観音」は巨大な花崗岩が積み重なってできた岩陰に祀られています。鹿ヶ峰にはこのような巨大な花崗岩をいくつもみることができ、それが「胸の観音」を祀っている岩陰のそれは特に大きなものです。日本人は、古くから巨石や巨木に神が宿ると考えていましたが、「胸の観音」の場合も、そもそもは岩陰をつくる巨石が信仰の対象だったとも考えられます。

この鹿ヶ峰の岩陰には、いつの頃からか観音像が祀られ、また等覚寺（現苅田町）の山伏が修行を行なう霊場ともなつて「鹿ヶ峰の観音」と呼ばれるようになったといわれています。そして「峰の観音」が、いつしか霊験あらたかな「胸の観音」に変化したわけです。想像ですが、胸の病に効くという「効能」が流布した背景には、庶民の医療にも深くたずさわった山伏の存在があったのではないでしょう



▲巨石があちこちに見られる「奥の院」一帯

か。いつの間にか「ミネの観音」が「ムネの観音」にすり変わったのも、もしかして山伏たちの作業では…。

## 伝説のタネ

### 〜古くて巨大な池の記憶〜

「胸の観音」参拝所のかたわらには小さな祠があり、中には長さ約一mで断面がU字形の木製品が安置されています。この木製品は「胸の観音」西側に位置するみやこ町勝山池田地区で大正八年（一九一九）に行なわれた耕地改修工事の時に出土したもので、その形状から考えて、水を送るための「木樋」とみられています（同じような樋材が一八世紀前半にも出土しています）。また、木樋が出土した水田の近くには、池の堤跡と見られる盛土が確認され、池田という土地が「池の埋りて田と

なりし所」（『郡典私志』）との言い伝えを思い起こさせる発見が続きました。さらに、平成一一年度と一三年度に池田地区の圃場整備事業にともなつて発掘調査が行われ、池の取水口跡がほぼ完全な形で発見されました。調査の結果、その構造は、国内最古（七世紀）とされる狭山池（大阪府狭山市）のものに酷似していることが分かり、はっきりとした築造年代の確定にまでは至っていないものの、この遺跡が、相当に古い土木技術を用いて造った、巨大な池の遺構であることが判明したのです。

伝説と歴史の混同は「ご法度」にしても、はるか昔に作られた、この巨大な池の記憶のようなものが「胸の観音」伝説の中に投影されているのではないかと想像してみても面白いように思います。



▲上空からみた池田地区。★印が木樋出土地点